日々の知識や力を発揮

全国高校総文祭みやざき大会出場

4度目の優良賞を受賞

宮崎県庁を見学した後に写真に収まる新聞部員

4度目の優良賞を受賞した。同部門には全国から選抜された118校の県代表生が出場し、宮崎市にあるNEWウェルシティで開かれた。

開会式で田口恭子会長が「新聞は社会についての深い理解、知識、健全な批判が重要」とあいさつした。

大会では実際に各班で現地取材。行き先は各班別々で、「橘通中央商店街と宮崎県庁コース」、「海辺の観光コース」、「有機農業と観光コース」、「宮崎の産業コース」、「古墳と神話の歴史探訪コース」の5ヵ所に分かれ、各班で取材した。終了後、会場に戻るとさっそくレイアウトに取りかかった。各班様々なデザインを考え、取材したことを記事にまとめた。

翌日は、前日に決めたレイアウトや記事を清書し、どの班も時間ギリギリまで取り組み、班員一丸となって素晴らしい紙面を作り上げた。

閉会式では青島成夫事務局長が「今回の大会は感無量であった。色々な学校新聞があるが、継続は力なりです。頑張ってください」と激励。次年度開催の福島県代表者にバトンタッチした。

藤本ちひろさん（2の3）は「今年は二度目の出場で昨年よりも楽しく学んだことも多かった。また、仲間の大切さを知りました」と満足そうに大会を振り返った。今回は口蹄疫の問題で開催が危ぶまれ、開催を決定したのが開幕一ヶ月前であり、大会期間中も宮崎県内各地で消毒をし続けなければならず、宮崎県としては苦しい大会であった。

全国の選手に混じって作業する小島さん

苦境乗り越えて

～矢板中央高校文芸部、短歌甲子園初出場～

短歌甲子園に出場した文芸部

選審査を通過し、盛岡で行われた本選に臨んだ。残念ながら団体戦、個人戦ともに入賞は逸したが、部員にとっては良い体験であった。大将を務めた豊口未香さんは「他校生のレベルの高さに驚いたけれども楽しく題詠することができ、充実した三日間でした」と大会を振り返った。

毎年夏休みの課題として創作活動を奨励し、良い作品は毎年文芸誌「たかはら」に収録。昨年度は記念すべき10号を上梓した。これも矢板市主催の「ともなり文芸祭り」のお陰で、第2回から「中・高の部」に作品を応募し、各部門で受賞。特に詩部門では大賞を7度、準大賞を2度受賞。俳句は大賞1度、準大賞2度。短歌は準大賞1度。だが昨年度悲願の大賞を獲得した。また、川柳部門でも初めて準大賞を受賞した。

本校は県外の大会やコンクールに果敢に挑戦してきた。福井県の「中野重治記念文学賞」や群馬県の「若い芽ポエム」にも応募している。

若者の活字離れ、高校では文芸部員が減少と創作活動は衰退の一途をたどっている。昨年度の県高校文化連盟の文芸誌「橡」に作品を掲載した学校は十数校である。本校は文芸の灯を守ろうと寄稿している。その甲斐あって、同好会が部に昇格し、活動を再開した。

今夏、岩手県盛岡市で開かれた第5回全国高校生短歌大会「短歌甲子園（三十六校出場）」に三名の女子生徒が予

日中交流会

～ニイハオ～中国人高校生～

「とき放て創造の力・暑き太陽の光と共に」をテーマに、第34回全国高等学校総合文化祭みやざき2010は8月1日、宮崎県で開幕。5日間の大会が展開され、本校新聞部は新聞部門に参加、

中国人高校生が踊りを披露

日中交流会は6月14日、中央記念体育館のミーティングルームで開かれた。中国人高校生4人と引率者6人を迎えて、山本香先生進行のもと、行われた。

吹奏楽部演奏では「潮風のマーチ」と「日本へ愛唱観衆」を演奏。中国団演技では「猪調」と「瑧家阿妹」、「跳弦」を披露。どちらも大きな拍手が湧き上がった。

参加授業では調理実習が行われ、中国らし寿司と肉じゃがを作った。雲南交流会では本校サッカー部の試合のビデオと張爽君の密着取材のビデオ鑑賞をしつつ飲み物やお菓子を食べながら和気あいあいと話していた。

中国団謝辞で「矢板中央高校に訪れてこのような盛大な歓迎をしていただき感謝します。私たちはとても楽しむことができました。心から先生方、生徒のみなさまに感謝します」と話し、交流会は無事終了した。

所属大学高校の楊媛さんは「酢がきいていて酸っぱかったけど、みんなと協力して作ったのでおいしかったです」と満足げに語っ

中国人高校生と協力してお寿司づくり

マナーアップ訴える

マナーアップを呼び掛ける生徒会執行部＝矢板駅前で

平成22年度の生徒会主催乗車マナーアップ運動は6月15日放課後、JR矢板駅、17日に西那須野駅入り口周辺で行われた。生徒会役員らが約1200個のポケットティッシュを配り、「電車内でのマナー向上」を訴えた。

15日放課後、矢板駅で生徒会役員が「乗車マナー」を呼びかけるチラシとティッシュを配布した。矢板駅員の佐藤守利さんは「これからも継続してやっていくのでマナーの向上を目指していきたい」と語った。

翌朝も西那須野駅でも同様に行われ、生徒会役員たちは通行人に対して積極的にポケットティッシュを配布し、マナーを呼びかけた。

溜口生徒会長は「これでマナーアップしてくれればいいなと思います」とうれしそうに語った。

ゴミ0目指す

生徒会主催の第二回奉仕活動は7月2日午後、生徒、職員137人が参加して行われた。今回も前回と同様で学校から駅までの通学路約1・2キロを暖かい陽射しの中、ゴミを拾い集めた。

石島洋平君（3の3）は「活気があって楽しく活動できたし、通学路が奇麗になってよかった」と嬉しそうに話していた。

通学路のゴミ拾いする本校生